

薬連ハイライト

令和4年度 第2回全国会長幹事長拡大会議 開催される

令和4年8月10日（水）午後1時30分より第2回全国会長幹事長拡大会議が馬場常任総務の司会でウェブ開催された。初めに山本会長から「令和4年7月10日の参議院議員選挙で神谷まさゆき日本薬剤師連盟副会長が無事当選することができ、藤井もとゆき参議院議員からのバトンを引き継ぐことができた。」との挨拶から始まった。続いて神谷まさゆき新参議院議員から「薬業界の皆様のおかげで当選することができました。今後は国民のため、薬業界のために参議院議員として頑張っていきたい。」との挨拶があった。

続いて座長の選出後、第26回参議院議員選挙総括中間報告が行われた。

初めに岩本幹事長から「第26回参議院議員通常選挙総括委員会の設置」と「選挙結果の報告」が行わ

れた。次に大澤副会長から「紹介者名簿及び支援者名簿について」、川田副幹事長から「街宣車活動について」、浜田副幹事長から「標旗リレーについて」、鳥海副会長から「広報活動について」、石井副会長から「本部における電話作戦」の報告が行われた。その後質疑応答が行われ、最後に荻野副会長の閉会の辞で終了した。



オレンジ日記

直面する重点課題を映し出す 予算概算要求

参議院議員・薬剤師
本田 顕子



8月31日、来年度予算要求の期限を迎えました。

厚生労働省の一般会計予算は対今年度6,340億円増の約33.2兆円となり、岸田内閣が目指す「新しい資本主義」を実現し、その先にある、豊かさを実感できる社会の構築に繋げていくために、保健、医療、介護、そして人への投資に重点を置いた予算となっています。そして、今後の感染症危機に備えるための司令塔機能の強化や感染症法などの改正とも連動した内容も含まれています。

医薬分野では、革新的な医薬品等の審査迅速化や薬物乱用防止対策などが増額されているほか、引き続き、薬剤師の研修、薬剤師が不足している地域への支援、電子版お薬手帳の普及などを確実に実行するための予算が計上されました。そして、電子処方箋の運用や子育て世代の薬剤師の病院復帰の支援、さらには新規に、薬局でのICT化対応、対人業務強化のためのガイドライン作成、処方箋なしで緊急避妊薬を販売する場合を念頭に置いた調査検討費が入りました。文部科学省関連では、学校の感染症対策支援、ドーピング防止活動支援などが確認できます。

国民の皆様1人1人の豊かさの実現に繋がるよう努めてまいります。



政 幸 だ よ り

私の地元豊橋市の初代市長は 薬剤師

参議院議員・薬剤師
神谷 政幸



明治39年（1906年）に初代の豊橋市長になったのが薬剤師の大口喜六氏であったことをご存じでしょうか。明治24年（1891年）東京薬学校を経て、東京帝国大学薬学科専科を卒業し、その後豊橋町議等を歴任し、初代の豊橋市長となっています。明治45年（1912年）に衆議院議員となり昭和17年（1942年）の選挙まで連続10回当選しています。大口喜六氏の名前は薬事日報社発行の「医薬分業の歴史」に度々登場しますが、西川隆氏の著書「くすりの社会誌：人物と時事で読む33話」では、項を立てて、「業権を求めて戦った薬剤師代議士 大口喜六の涙と汗一大正昭和期の難問解決に心を砕いた稀代の政治家」との題目で彼の戦いの内容が詳しく記載されています。

最大の戦いは、大正13年（1924年）頃から議論された「薬律」を改正し、身分法たる「薬剤師法」と普通薬の混合販売を認める業務法たる「薬品法」に分離し国会で法制化するというものだったそうです。薬剤師法は成立しましたが（昭和18年に再び薬事法に統合され、昭和35年に分離され現在の薬剤師法となる。）薬品法は成立しませんでした。

このように薬剤師のために戦った政治家が地元にいることを誇りに思い、同じく政治家となった私も頑張らなくてはならないと強く感じているところです。